

家庭寶鑑
小倉百人一首

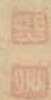
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



聯珠



金鑑

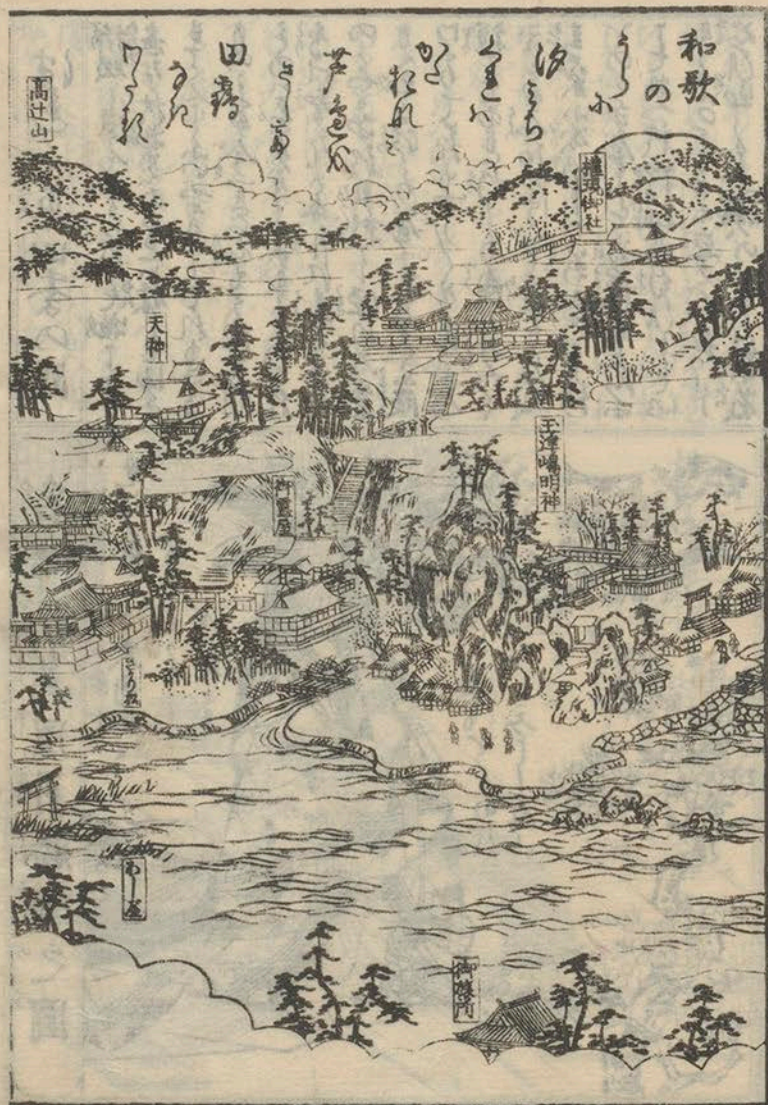


聯珠



自書





ふらふら

伯爵通房

秋をひらき

ふはふらん

少倉乃屋

峰のふらふら

小笠原流折形指南

未廣

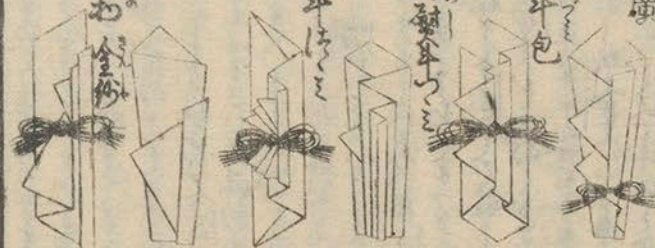
腰斗包

真の製半

製半

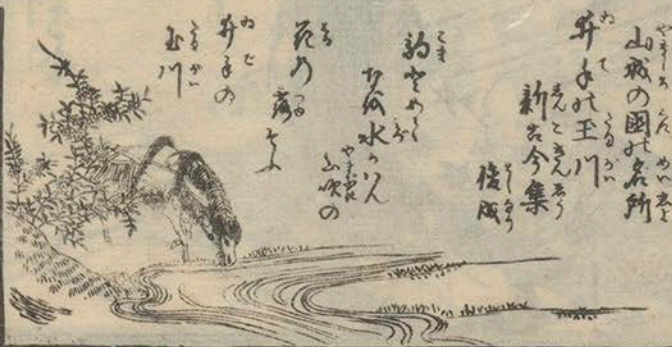
月

板のお



女中五姓名字盡

長	土	飛	持	久	火	榮	新	米	本
陳	性	源	源	義	性	房	谷	玉	性
六	重	高	高	花	床	品	舟	光	福
石	中	極	延	為	吉	新	竹	飯	賢
町	海	今	握	魁	忠	蜀	梅	金	半
東	保	玉	金	吟	虎	大	福	由	文
滝	傳	金	金	越	貴	軍	麻	沢	誠



板のお

葉の板のお

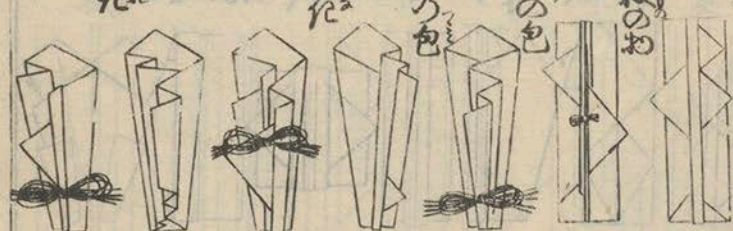
扇のの包

月草乃包

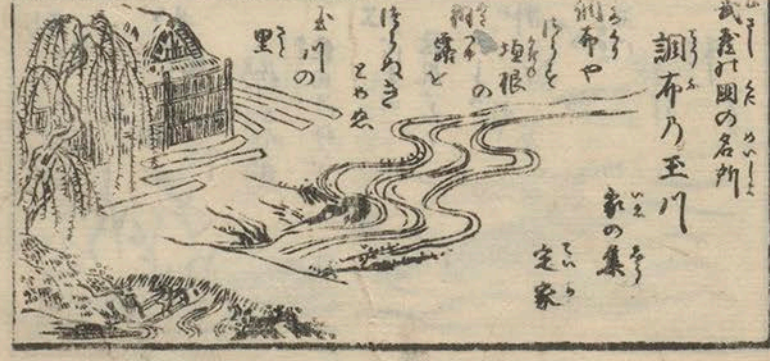
木のた

月

系花



次	市	松	水	露	系	市	金	尚	隆
村	十	晴	性	香	末	峯	性	通	流
和	松	若	性	每	淡	纒	幸	為	子
和	松	石	性	茅	堂	巻	恒	楠	政
清	谷	七	性	久	用	民	好	陀	丹
実	光	三	性	与	里	門	好	岩	笛
展	文	小	性	中	常	坂	安	品	基



The image shows a sequence of seven diagrams illustrating the construction of a book cover. The steps are as follows:

- Diagram 1: A central rectangular panel with a decorative border.
- Diagram 2: The central panel with a small triangular flap added to its top edge.
- Diagram 3: The central panel with a larger triangular flap added to its top edge.
- Diagram 4: The central panel with a rectangular flap added to its top edge.
- Diagram 5: The central panel with a rectangular flap added to its top edge, and a small triangular flap added to its bottom edge.
- Diagram 6: The central panel with a rectangular flap added to its top edge, and a small triangular flap added to its bottom edge.
- Diagram 7: The final assembly, showing the central panel with a rectangular flap added to its top edge, and a small triangular flap added to its bottom edge.

雲是殘粧髻未成

天の川をひ
万代に

重津乃
ゆきと

去衣良覆庶男

乃
燭
曼
荒
月
次
宵

乃可

いし

ひりとり、先上

口美

隆たかし
興き

千



3. 2.1

能

久々

秋

4

卷之四

五ノ

社

時

1

10

1

7

猥

三

攝

100

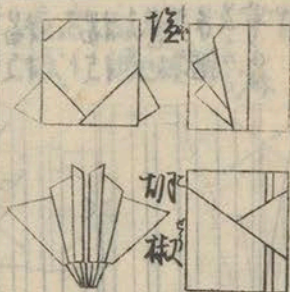
子

和

二

The image consists of two horizontal panels of Japanese ink wash illustrations. The left panel depicts a landscape with a river flowing from the left towards the right. On the right bank, there is a small house with a thatched roof and a fence. A small boat is visible in the river. Calligraphy is written on the left side of the panel. The right panel shows a river with a large, dark rock formation in the center. A small boat is visible in the river. Calligraphy is written on the right side of the panel. A small square seal is visible between the two panels.

櫛



婚禮用與之圖

男様のより形を松とゆふと
と能みの只 全あ川筋あ



七夕の雲ふ秋の露ふをくことれ
 わさりふひくはしくふまいと
 ままののをせけふふ白のせま
 七夕はあふまふまんうん
 まるゑの玉れととのまふ
 露ふのふれ秋とり
 七夕乃いふとまてき布を
 けまり衣まふをそわん
 天の川にひのふれとりつ風
 けふとていそねふふなり
 あれたる襖の七葉のかり
 ぬ瓜あふま何れ秋はたれ
 七夕はあふめりとてまん
 とれとおふれききけ
 ひと星の天の雲ふあふ
 こひやふそふまふうん

[illegible]

口ノ六



天の川ありてせれば末
 万代なりてあはれきらん
 ひとせふ一歌とありと七々の
 わひえん世のなりあはれ
 玉の河なぐり月もさへ
 まれ乃あふ瀬り老さめ
 七々々のものもあはれ
 万代もえん世のなりあはれ
 天の川ありてせれば末
 万代なりてあはれきらん



百人一首よそくせ

百人首
ひそく九つとて後へつゝ
ひそくふいふとてりせく
ひそく

天智天皇 あまのあきみ 天武天皇 あまのあきみ 持統天皇 じとう 孝德天皇 こうとく 孝元天皇 こうげん 孝和天皇 こうわ 孝明天皇 こうめい 孝德天皇 こうとく 孝元天皇 こうげん 孝和天皇 こうわ 孝明天皇 こうめい

よまのちひと
ふきあし
てまへ
くさばは
きんぎょいかにうり
ついで

曆
 与
 一
 陽
 院

文室

土は悪^うく^く 坂上^{さか}へ^へ 土を^{つち}と^とす^すむ^む
うくく さかへへ つちとすむ

文彦胡康

赤深
中納言

初号巻終 崇徳院

わまのくちまきーひるも福んといふとふねあ

よむ。はぐれぬ。そのほきまじり。月をねらい
にあそびまじり。有わけの月夜まじり。つゝかきむ

へー。あれをさやゆひさあー。あ。れ。す。そ。ろ。く。

そぞとちやうつ。形かたち人ひととよむべうけ。うまことこまぞとまはせ

あつとよびー何のうてーくんとまのよへ

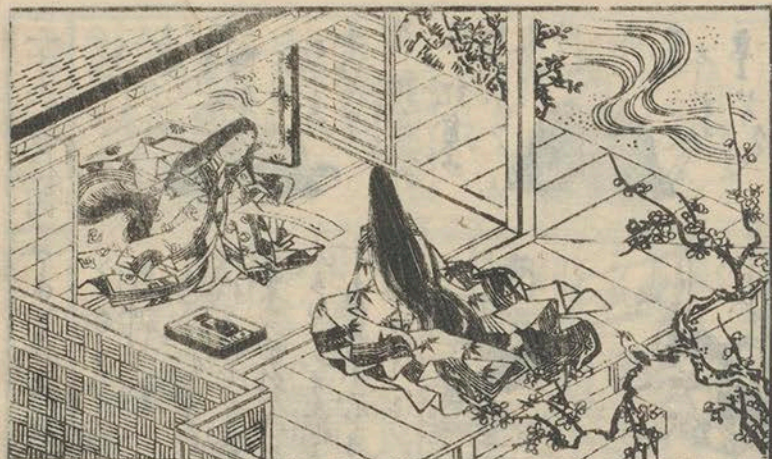
百人一首^{いしやう}々^{させん}の^{おの}人^{ひと}集^{あつ}と^{あつ}り^{あり}あり

三人摩二表撰三仲九四忠孝二字家うそをとり

史氏一昔に氣極其に室家に小金山唐入隱のめ組
ふえうびきと人々をふなり

ひしよを性^{象主}を板^{象主}奉^{象主}向^{象主}と世ふてくをさといふとも傳

松^{まつ}の^をも^も抱^かく^る家^{いへ}に^に秘^ひけ^るふ^ふよりそ^そと^とく^く改^かむ^むを^を重^{おも}く^く



天智天皇

秋の田舎

荆楚

唐

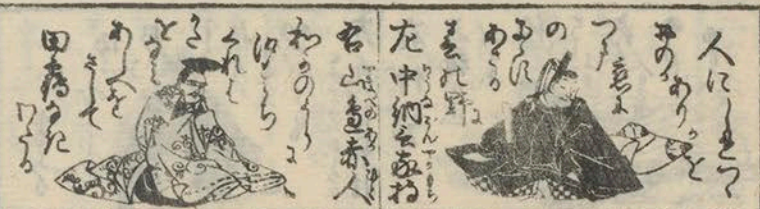
智

つゆ
あふ

人皇三十五代帝
天明五年
千百九十九年

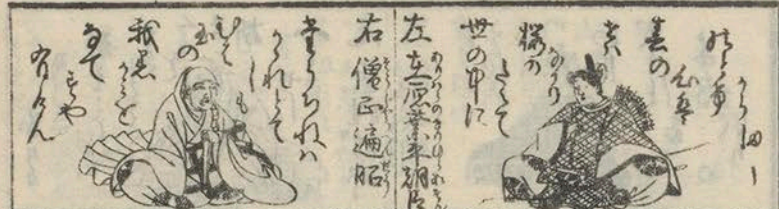
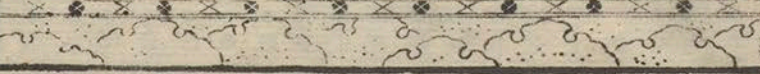
年号ハ
今
下

懷
六



山達赤人
 見れば
 白少洗
 富士の
 雲と煙

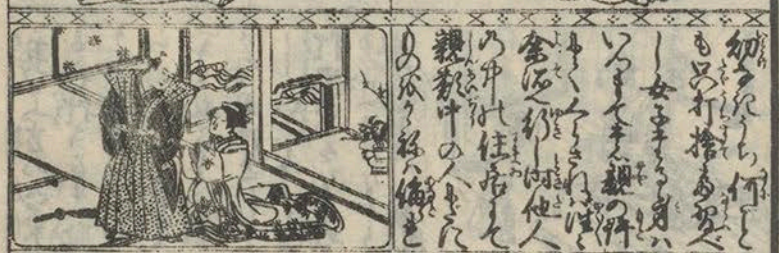
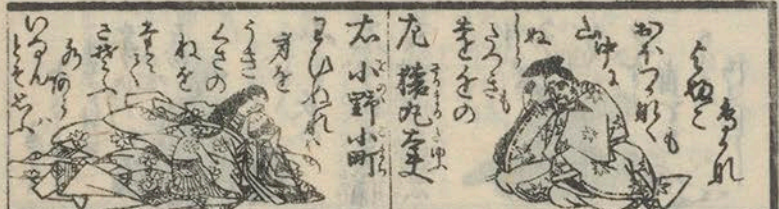
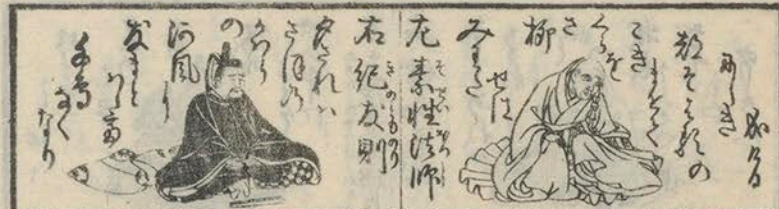
古今
 新古今



徳丸太
 奥
 踏
 なく森の
 秋

古今
 新古今





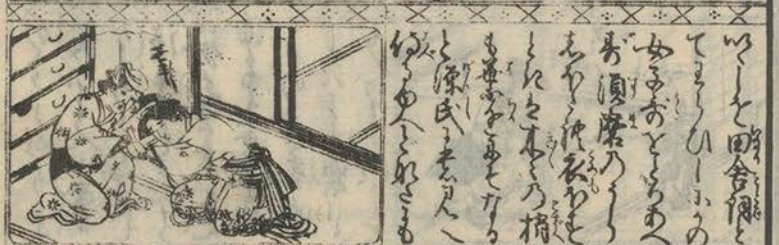
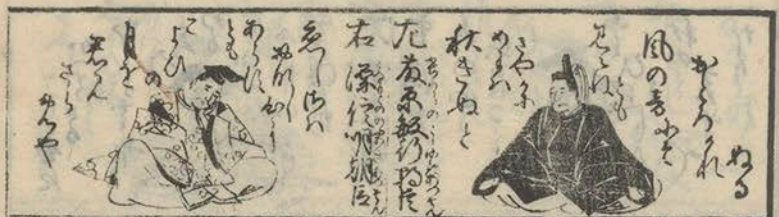
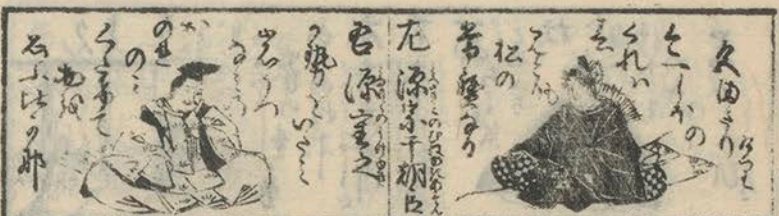
移るるもあはれ
 のをさうとては
 もろくむねは
 一あはれな
 室なり外乃突
 かれどして先
 して有なれど
 け恥のうらな
 うあはれな

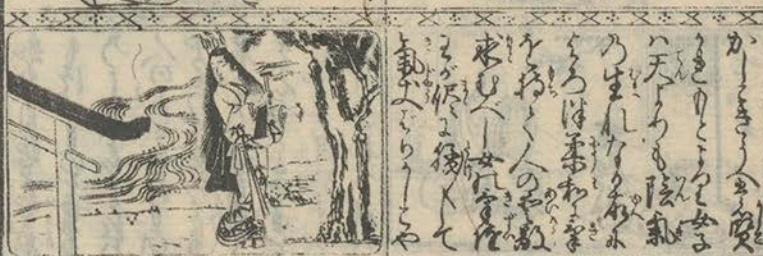
仁範帝の御代
 大入道
 輝九

大入道
 輝九

懐かしうてさす
 りき二代のうき
 なき歌もよの
 うちに習ひたれ
 とれぬわづら
 用をされとて
 人よりそそ
 を作しきふ
 何れあはれ

今年...
 九百...
 古...
 萬...





古今考八
離刑考

人



現代經濟

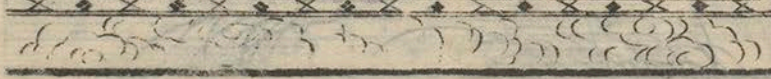
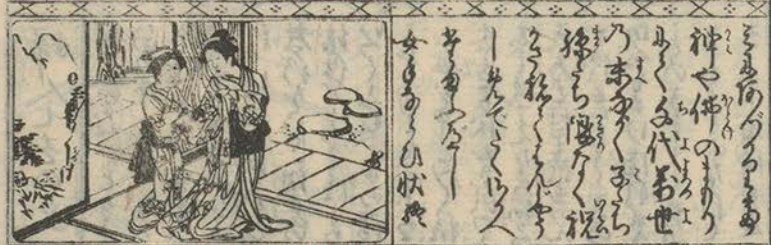
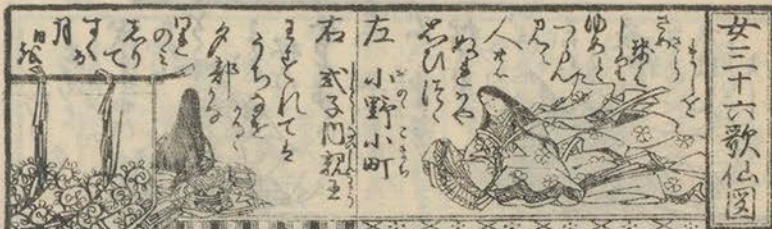
古今圖書集成

[illegible]

のんとうれせり
 せうふ間^{あひだ}あそ
 いふんまふり
 かりたりゆき
 くのまて家内
 衆をなす
 うゆふゆふ
 まふまふ
 かりり



女三十六歌仙図



右 同 方 肉 内
 左 中 勢
 右 同 方 肉 内
 左 中 勢

婦人七玄の夏

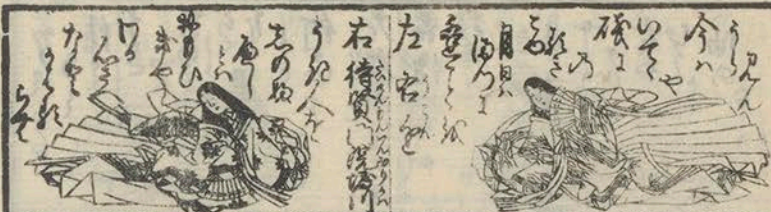
[illegible]

文屋康秀
 吹く秋の
 音を
 聴く
 文屋康秀
 今年
 九月
 八日
 文屋

かねておん
 後
 うき
 りめ
 かり
 何
 九段
 書
 ね
 ち
 中
 ちや
 ひ
 抽
 の

廿二日辰考きり
 女をさうりたりと
 事と事とゆふに
 とくさく家おぼ
 せんさくさるれど
 ならぬとさくさる
 せんさくさるま
 てもさくさるま
 けき痛くさる
 くさくさるさる

大江山
八百九十九
月足花
物も
これ
り
妹はわねと
ち
ち

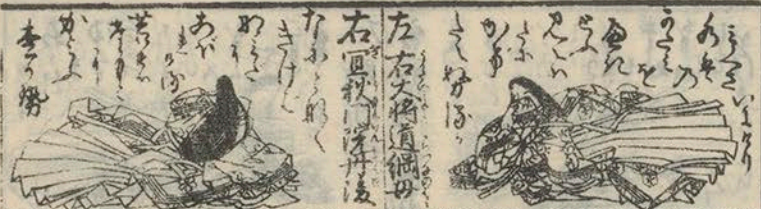


最ふけりてを親
 六代成りてを
 して相傳りてを
 ころもどれを
 のゆめを
 るるを
 たりとそ
 はゆめを
 ありて
 中へ保ちて
 べし
 てふりて
 之末嗣のほう
 といふく
 と医師より
 ちて
 昔に淫乱かり
 ざりて
 女を
 一



小野聖志
八百七十七

十二



徳就ふゆきもあ
 りをけり其の志
 とくふふむう耻
 をのふさうなち
 なんせむとふ方
 たれなり三徳基
 橋乃女事され詞
 よひーい女ら
 てうたれものそ
 男のうつくしそ
 ろうよふ百人首
 人市がうもたぐ
 れぬおきてたれ
 うきまゐなりとも
 とのなりと世をも
 ひねまるをはけて
 龍に振ふるれを
 しうへ泥ふたりも
 名はサかん女々
 かくゆりのなれ



今年
中
八百六
十
五

力之息



いふ人我の心
かふのをりあり
しるべしほきま
うまへやうき
そのなりといふ
かりもいふ津福
理を好むは男
を近世上の法
を以て身
人立をたとも
あのとてきま
かふ様一此を
いふなりとい
まへし珠ふり
女の音あり師
まへしふく
いふなりとい
唐生宋の代り王
秀のいふもの
いふをいふ



[illegible]

世ふをさへんうゝ
 人即ちさふとく
 のえまゐりえ
 今いひし世ふ
 ののけふの住
 かりてくみ
 存ひくま
 さふ他取
 るにのう
 まを主考
 てくま
 いて
 なる
 なる今
 ちやせん
 と妻煩
 けふの
 かり
 百兩

A black and white illustration of a man in traditional Japanese court attire, seated and holding a large, ornate bowl. He is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy characters. The text includes '源宗平朝長' (Gen Munehira) and '冬も' (Fuyu mo).

十
四

てかうれしくも日
幸は此にありて
なりぬくはた女
房の寺ありと
初めありと
それゆへに
なりぬくはた女
房の寺ありと
初めありと
それゆへに

元河内親王
今昔物語
りれ

古今考索

左 紫式部
 右 藤内
 左 紫式部
 右 藤内

一くられまの心
 もくくくくくく
 徳さきくくくく
 りくくくくくく
 潤南さくくくく
 来さくくくく
 子くくくくく
 妻の杜夫人を
 くくくくく
 くるくくくく
 媒姫公くくく
 の女をくくく
 けくくくく
 女くくくく
 飲食起居も席
 をくくくく
 一くくくく
 人を男くくく

壬生忠岑
 有的志
 見る
 口
 何
 うき
 ちり



十五

[illegible][illegible]

坂上星則
おのりきき
つとめ
月と
まてふ
うさねに
あはる志る霜



[illegible]

たきまゝなりとれ
むかりも福さきま
を病うきまなり
身あゝ病あり
しほりけり病
わひいばな
て悪きをすいけれ
かりくはつえ
家督相續なりけ
はゆふに極め
疾風のやみけれ
このそけふの
何と云ふに
月を経病人あり
なうらまゝの法
りのすいのに
人々を
はやくなりけり
まゝ大底不

春道列樹

山河の

子之

是

卷之六

卷之四

の

...

九

古今
實文

十六

紀友則

久々乃

吟

٩

あ

き

美

志人

花のち

九百五十五

古一



久しき
 吹く
 九清少納言
 右去
 春
 月

徳の事^{こと}の終る
ものなり六平生ん
きて各居成は
医療をほうふ
人の力のねえ
すいぶん保赤
われぞれとて
天に於て亡
きやうなつた
ゆゑに神仲を
わらさるやうに
仰さるゝなり孔子
猶もあやむるな
子路いのんじ
よめぬなり
そへちれば本心
抑えりて論理
よりより徳あり

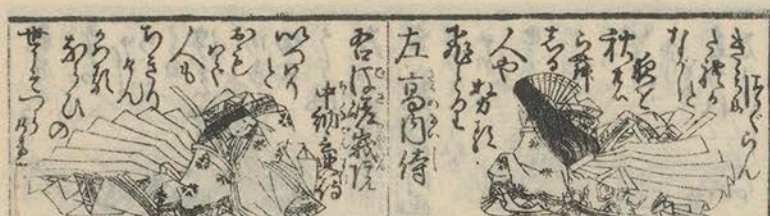


神といふ人の天子
 又高位なる皇方と
 ありては、
 つふかと折るゝ
 けしきにて、
 けしきなり義我
 又、
 と、
 まゝと、
 又、
 法、
 何、
 わりて、
 善、
 ぞ、
 又何、



古今
貴十七
難奇

十七



紀貫之

人といふ

仁

卷之六

物

花

素

今年

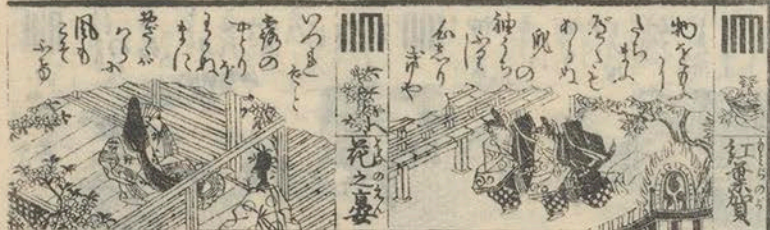
4. 5

古今
第一
長壽



○書云言わんを
ゆわん世作れども
紫衣わんを^{きんぎょ}
^{しん}心親類
明^{あきら}ま^けずりてそ
るさふて成つ
まきありふん
事ありやせ
も何きやか
うれば候も
我より拙くは
ては^{たふ}
才七番にむす
去りて^い
とてその^お
報望^{ほうぼう}孤^{ひとり}
るまふわか
いとかな神の

清忠深養父
夏の夜も
青さ
明る
電の
月
生
古今
七百人



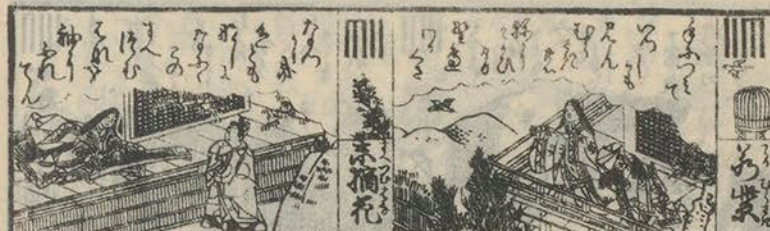
女教平生益境
女の容貌と髪は
つねに美しくする
我朝唐をりふ
わが来りし唐
その後境とてつあ
その心より奇癖
を貴丁とて破ふ
心よりわがや
心よりわが女中
貴客の書とて世
ふのふとて何
たれをいふとて
たれとていふと
いふとていふと
いふとていふと
いふとていふと

壬生忠貞



あし
そあしあ

三
鳥
籠
美
業



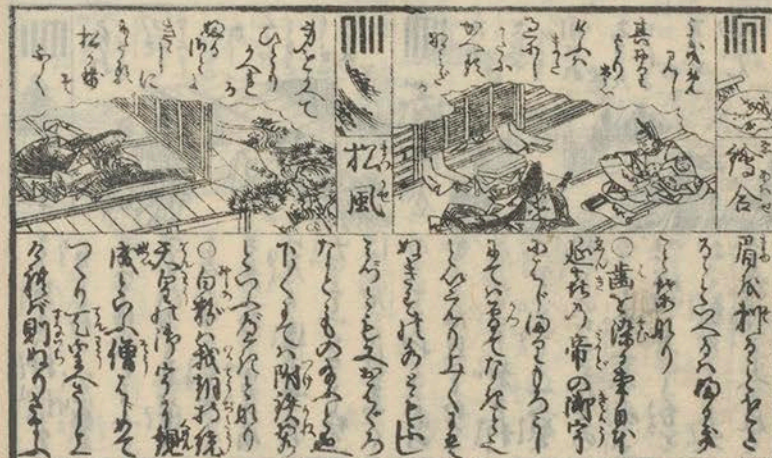
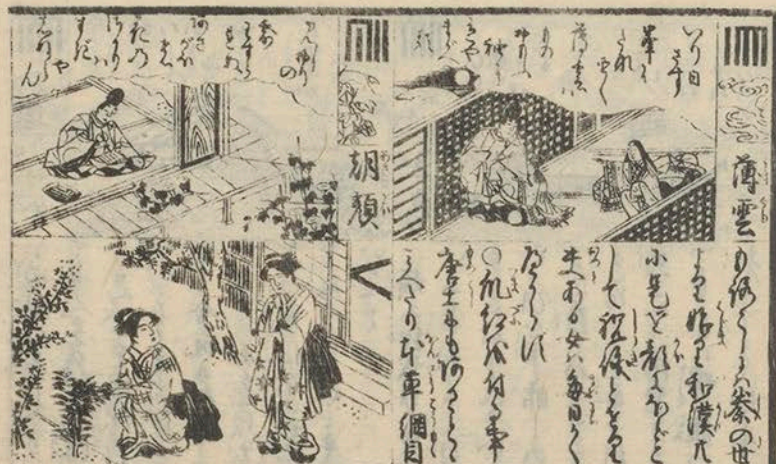
わが分ちぬくべし
 夢又傳ふ人あり
 くされ下敷に我
 う海より其月を
 相する福福の位は
 天なるむじう倍
 てや人でもあまほ
 ききしれとぞく久
 女もしらとふさ
 えり守るなりけ
 ひらんとてそれ成
 捨たふんやめ徳と
 りくとつおふ富
 眞にかわしくいえ
 さんめあるとみ
 孫連綿とつなぐ
 ら味くらまや和
 思うそふれべ

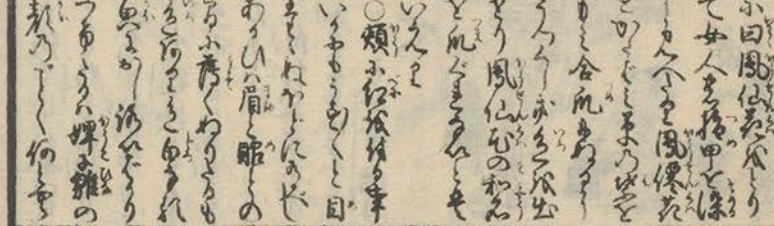
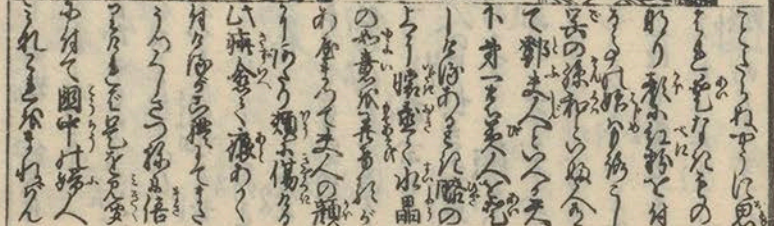
平善盛



人

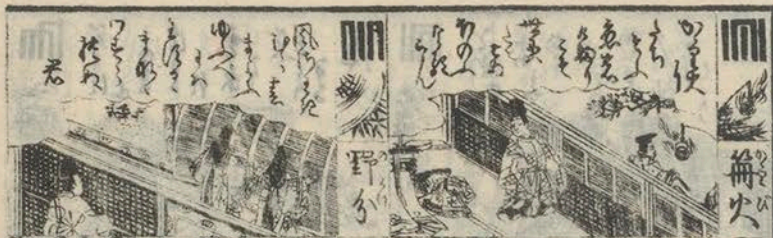
時代おきき
おきき
おきき





[illegible]

世五



ふまのにも成り
て西橋を参うと
ふしと云ふ
いふふと
と云ふより
むすふ
ふと云ふ
まのむすふ
と云ふ



後漢書
卷之十一
東漢書



○衣服の整理
 う御宇中、昔も
 儼然と人々を
 憐れむひのち
 へすやうて月か
 りんふ月くまど
 けりしつくと
 結構な衣類は
 の有るにても恵
 なされたりありさ
 女中や人の四
 ろもよく知るとり
 するもの、
 とそいへば、女中
 は若者の物敷を
 かりあつらん一
 ねづきよきもの



世々之骨分ひまゐる
 夫いづひも夜に
 つねまたふたへくさ
 女のより怖し口
 なりき夜はうここ
 そあげこれぞ
 其里の老翁男女
 はいのする天怪の
 物をもとと涙を流
 れしむらゝをかり
 天怪相應よせられ
 うつろふあゝと柳
 なき風俗而新を
 もあやしく大く造
 しうそくもんきぬ
 せんらんううぬ
 い橋、林谷に
 ひんぶがれど

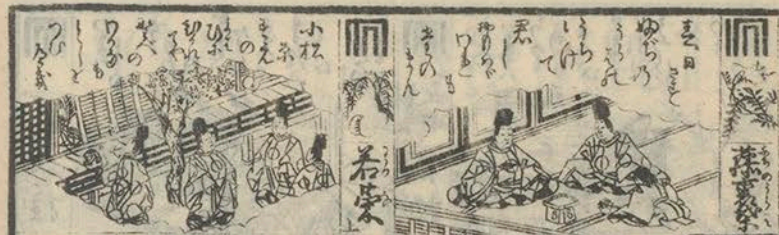




式三瓶の膳を舞あふ
まへにとすきね相
なりりともそ幕丸
よつとてうく様變
打月まゝ同しと也
一七六三八八二五二三
と名くゆれとさち
より町家なるとい
ゆるなりといへり

A woodblock print illustration of a seated man in traditional Japanese court attire, surrounded by large, stylized Japanese calligraphy. The text includes '大納言公任' (Dainagon Kounin) and '久し' (Hisashi).

子藏書千本
精舍



飲食給與傳
 一、酒のつりてはれぬ
 と右のもをそと
 ついてたふすのむ
 なりゆきなきに
 うそるまじやう
 ふたなりけし
 ちへんそゆのづ
 くはちえき
 意下なるお死
 てんの勝かちわ
 まなかなせや
 かーさううひ
 きて休下
 らばあふ
 もろく

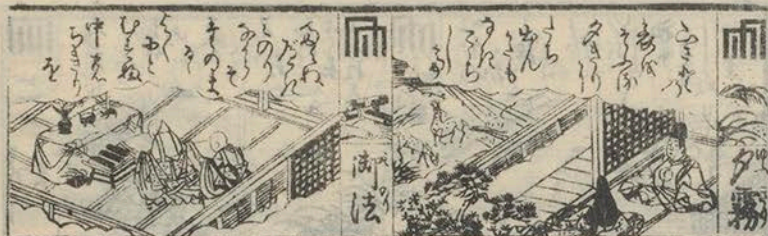
[illegible]

卷七



一、食のりやうきん
 冬瓜を汁をしてとて
 煮ゆして其の汁を
 一はちと飯粒にとり
 上飯にそめてまじり
 て甚だその実をまじ
 りて汁をとけてすべし
 あまた飯をつけざる
 由のみとのわりはれな
 けむせん煎るべき座
 ありたるをさそうけ
 る事といふことある
 但やうくん飯の
 新し格別のあり
 ばせぬといふ所へ
 もむらうやうぬいの
 習俗がつかたなり
 せん大なる市の如くぞ

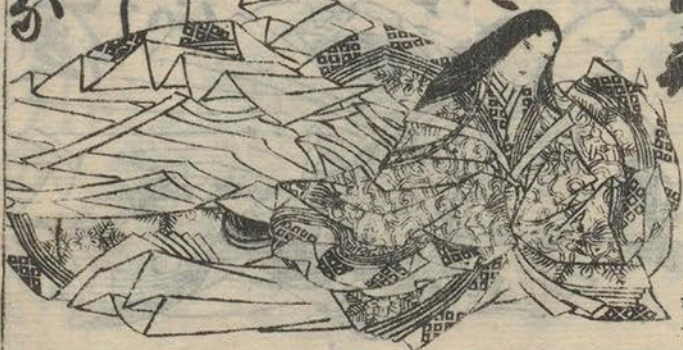
和泉式部

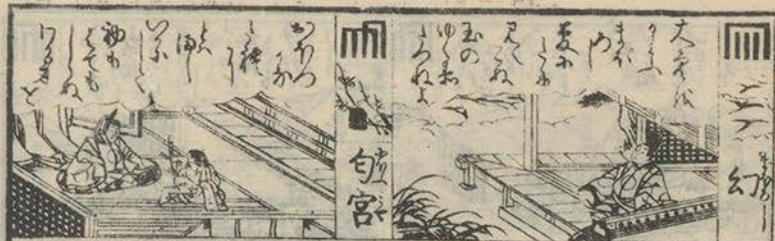
[illegible]

よるゝ風物　よるゝあはれ
 よるゝ九十九のり
 いふゝすゝなりさゝなり
 まゐるは花の中
 あいふゝとまゐらん
 さゝあをたけりて
 まゐるゝ又あはれ
 まゐるゝのり
 あはれゝぬもよし
 まゐるゝ中　あはれの
 ねむりてかゝるゝ
 料理人のあはれ
 るゝまゐりて
 あはれゝのり
 けゝともなひに
 あはれゝるゝ
 るゝとまゐりて
 よるゝすゝひて板
 けゝあはれゝるゝ

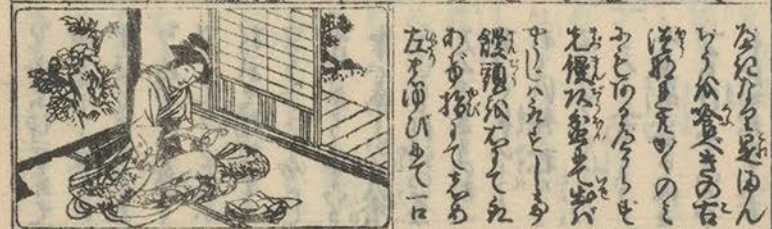
柴武部

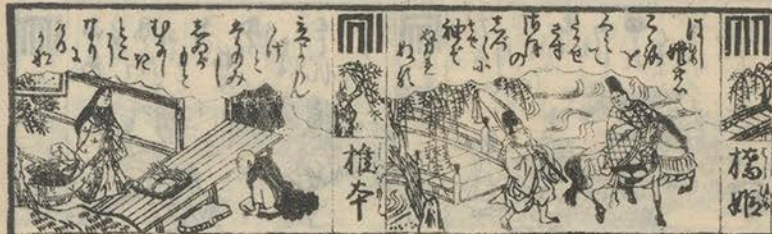
あやみやくさるるやうな
 病のついで



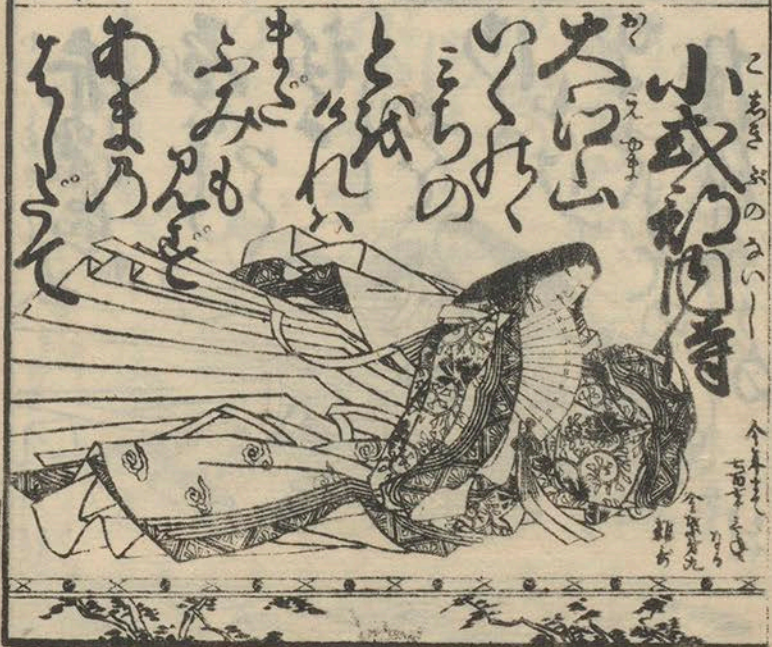


大まか
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

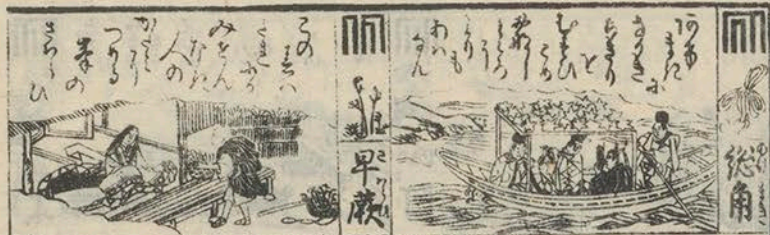




心をふりて
 海の方よりさうに
 中ねのなまこびと
 ちね中ねはなほく
 ばきんちうをふ
 れたを楊梅まふ
 けりそさくへんに
 あり中ねそまの
 幸をふりしに
 りじをねの
 足さきりのめり
 ありと見の
 われ保稔
 海の方よりい
 ちう又幸さく
 ちも幸さく
 一ちうふまのりや
 もれ知れず



今年生



幸ひ要なり又商
 けいふんぐとすぬ
 一そぬ相りとの
 ずうくぬぬぬぬ
 わりきぬけきぬ
 舞ふてぬき割て
 まのふー
 藤ふぬぬぬぬぬ
 のふのききぬぬ
 めも下もぬぬぬ
 そりぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬ
 の方とふなりて
 方ぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬ
 てんぬぬぬぬぬ
 はぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬ



調花對一五折



甚ふくや山
 こそ金ふも成か
 とれま中のりち
 なるり成二刀ふり
 てこつて長敷
 のふぞ成ふ事うに
 様ふ形ふりし成
 成じをそへて出
 とへ一見ふて成
 なるらんづいなり
 なるふふふふと
 まふととととと
 うふふふふふふ
 さそたのもふ成
 たりととととと
 ととととととと
 なるたのも成
 わりふてふふふ

清少納言

我を
 こころそ
 ちの
 けり
 よふ
 実
 ゆ



後於正月十六
雜言



とうへりて
 の右のまはま
 ーりてぬ物
 らりけぬを
 なりて下ぬを
 そとと一のけ
 とかーて
 ぬふひぬ
 とぬをぬぬ

たふさ道雅

A black and white illustration of a man in traditional Japanese court attire, seated and writing with a brush on a scroll. He is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy characters. The characters are arranged in a circular pattern around the man, with some characters appearing to be part of a larger composition. The man is wearing a dark, patterned robe and a traditional headpiece. He is looking down at the scroll he is writing on. The background is plain, and the overall style is that of a traditional Japanese woodblock print or a similar artistic medium.



卷十一



そこのもろは
おとけを二
くらやとく
著る勝あま
とりふれて
くとも毎
るんや
青かうあそ
食ふうー
と即ちあま
やううー
人かやうか
影さううー
もろをうー
ど押さうー
つるやうー
おろさうー
はさうー

権中絶云定頼
川旁
わく
の細代木
三十一



十月和歌

正月

ちんね花 祐雅
きんね花 祐雅
ゆね花 祐雅
梅さうりや
まのりや



おとけを二
くらやとく
著る勝あま
とりふれて
くとも毎
るんや
青かうあそ
食ふうー
と即ちあま
やううー
人かやうか
影さううー
もろをうー
ど押さうー
つるやうー
おろさうー
はさうー

相模
かきね
神
わく
の細代木
三十一



二月 柳 三月の
ひらけし
すき
ふた



春の風
ひらけし
すき
ふた

三月の
ひらけし
すき
ふた

ゆゑもあへてなれ
 かなもふの勢きあ
 りつゝふん
 飽飯けをうけ飯
 小ぢやあめわを
 くらやななりと
 んをくらひのそね
 このやをほうとん
 つた飯らふふあ
 推挙かといふの
 のののせてお
 かりやうとつ
 ておとわりけう
 中へいふもなれ
 とのうりまわれ
 ねいふひあふ
 なれわり
 漸とくやなれやう

花大僧正号

三

わろこし

五

乃

花

卷之八

嘉元

卷九
雜記

三月 桜子の

老中御膳所

如之

うのふ

先づ、この下を食
 食うふふけを
 四ヶねをうへに
 とこの糸を食物
 とするべし
 手帳の書ありあり
 の紙をうへに食
 べし、この糸を食物
 とするべし

おれ

就

心

卷八

卷之五

長

夢

春の

す
の
ま
い
固
固
固

子我子去龍子

...

—



去難



あつては女中
の者のあつた
ねがうと申し
人をもつてく
うがと申し
湯衣のあつた
箸をたのし
ひふきまのひ
ふきなり
雑衣とふき
来とふき
とふき
付もつて
箸をたのし
のあつた
あつた
のあつた



三條院

人皇千七代帝
今皇千七代
草子
カ。

A woodblock print illustration of a man in traditional Japanese court attire, seated and holding a long, folded object. Large, stylized Japanese calligraphy is overlaid on the image. The man is wearing a patterned robe and a traditional headpiece. The calligraphy is in a bold, expressive style, with characters that are partially obscured by the figure. The background is plain, emphasizing the figure and the text.

卅十四



七六二うわの先寒
 七六三うわの先寒
 七六四うわの先寒
 七六五うわの先寒
 七六六うわの先寒
 七六七うわの先寒
 七六八うわの先寒
 七六九うわの先寒
 七七〇うわの先寒
 七七一うわの先寒
 七七二うわの先寒
 七七三うわの先寒
 七七四うわの先寒
 七七五うわの先寒
 七七六うわの先寒
 七七七うわの先寒
 七七八うわの先寒
 七七九うわの先寒
 七八〇うわの先寒



能
周
法
順

今年
七百

わに煙く
三玄乃
山玄
みち
第六
そとこれ川
に成なり

ま
ひん

張松
背八
秋の

秋のふ

[illegible]

わゝあまもさふ
てもうのゆがれ
ひをいそいで
次なるをけし
すゑまゐるを
みまをひて又
かゝりのなほ
くちをむく
くそ何きゆ
り何をも一と
と二番より食
べえて然るに
あつけぬひを
えんとらば二三
の橋かけを吸
ては橋のある
りたるなりの上
ありて七や八

今奉
七百五十六

若を



卷八

芳林

秋のゆくえ

後於ま
才田
秋の

三十五

七月 相の本まゝに
うゝゝゝゝ

徽志記

へんがとめし
 ぬのどき
 のまじとゆへ
 さいしんが
 うへに
 へんがとめし
 ぬのどき
 のまじとゆへ
 さいしんが
 うへに

大納言經信

夕
夕
夕
夕

門田

怡



七

河

枯樹

今年こそ
七十九の
おぼろ

七、而元氣必虧。

七月 相の本まゝ
うゝゝゝゝ

八月 森のぼる

病もわん

控少信訪者。

需

風

秋

蘇子

竹の

[illegible]

くれ
 濡る
 袖の
 おけ
 あ
 も
 ち
 ち
 の
 萬にきく
 祐子同親王家紀行

八重元十一年

三十六

九月

筆之圖亦名所

茶中納言屋

高砂

おのり

詩

嘆

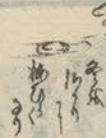
と

00

孝

六面平正。

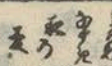
欽定



77
K 2

說在
才一難

地獄



橘ひきの
新組

今年

先

好

もて



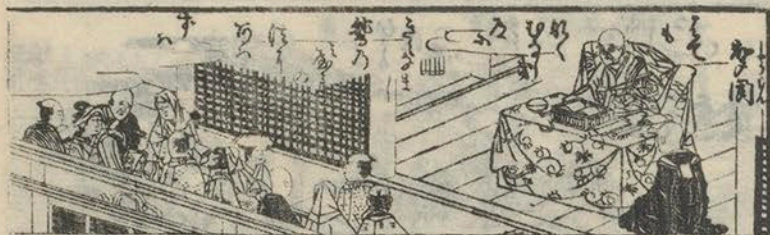
桐壺
 さうは下つ更か
 せんじくは理の
 せまきさゝあふれ
 よれぬひさあ
 夢のささくれ
 ま
 須磨
 すまきふもふれ
 流のしとふま
 浦の名さつれ
 月ふなふれ
 いふふふふ
 まふふふふふ
 いろふふふふ
 ふふふふふふ
 のふふふふふ
 ふふふふふふ

送周法師



文成
孝子

四十一



天下太平
てんごふへい
いさふれふ
さふひれ
らとふ
ふふふ
はふふ
はふふ

皇太后夫人李俊成

世乃中よ

三三七

みれ

七

五

山

樂

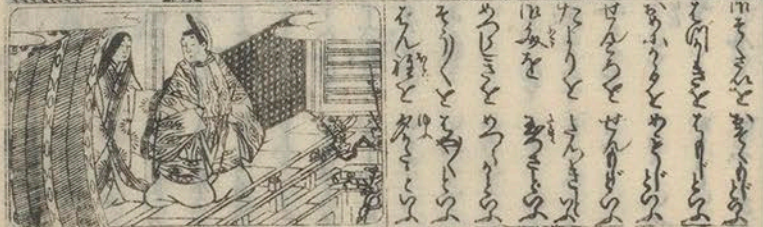
卷

卷之五

卷之四



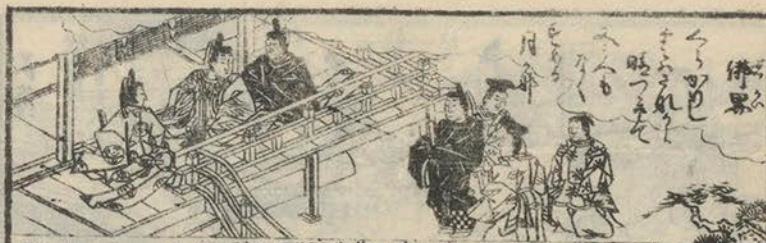
十如是和歌并圖



۱۱۱
 ۱۱۲
 ۱۱۳
 ۱۱۴
 ۱۱۵
 ۱۱۶
 ۱۱۷
 ۱۱۸
 ۱۱۹
 ۱۲۰
 ۱۲۱
 ۱۲۲
 ۱۲۳
 ۱۲۴
 ۱۲۵
 ۱۲۶
 ۱۲۷
 ۱۲۸
 ۱۲۹
 ۱۳۰
 ۱۳۱
 ۱۳۲
 ۱۳۳
 ۱۳۴
 ۱۳۵
 ۱۳۶
 ۱۳۷
 ۱۳۸
 ۱۳۹
 ۱۴۰
 ۱۴۱
 ۱۴۲
 ۱۴۳
 ۱۴۴
 ۱۴۵
 ۱۴۶
 ۱۴۷
 ۱۴۸
 ۱۴۹
 ۱۵۰
 ۱۵۱
 ۱۵۲
 ۱۵۳
 ۱۵۴
 ۱۵۵
 ۱۵۶
 ۱۵۷
 ۱۵۸
 ۱۵۹
 ۱۶۰
 ۱۶۱
 ۱۶۲
 ۱۶۳
 ۱۶۴
 ۱۶۵
 ۱۶۶
 ۱۶۷
 ۱۶۸
 ۱۶۹
 ۱۷۰
 ۱۷۱
 ۱۷۲
 ۱۷۳
 ۱۷۴
 ۱۷۵
 ۱۷۶
 ۱۷۷
 ۱۷۸
 ۱۷۹
 ۱۸۰
 ۱۸۱
 ۱۸۲
 ۱۸۳
 ۱۸۴
 ۱۸۵
 ۱۸۶
 ۱۸۷
 ۱۸۸
 ۱۸۹
 ۱۹۰
 ۱۹۱
 ۱۹۲
 ۱۹۳
 ۱۹۴
 ۱۹۵
 ۱۹۶
 ۱۹۷
 ۱۹۸
 ۱۹۹
 ۲۰۰
 ۲۰۱
 ۲۰۲
 ۲۰۳
 ۲۰۴
 ۲۰۵
 ۲۰۶
 ۲۰۷
 ۲۰۸
 ۲۰۹
 ۲۱۰
 ۲۱۱
 ۲۱۲
 ۲۱۳
 ۲۱۴
 ۲۱۵
 ۲۱۶
 ۲۱۷
 ۲۱۸
 ۲۱۹
 ۲۲۰
 ۲۲۱
 ۲۲۲
 ۲۲۳
 ۲۲۴
 ۲۲۵
 ۲۲۶
 ۲۲۷
 ۲۲۸
 ۲۲۹
 ۲۳۰
 ۲۳۱
 ۲۳۲
 ۲۳۳
 ۲۳۴
 ۲۳۵
 ۲۳۶
 ۲۳۷
 ۲۳۸
 ۲۳۹
 ۲۴۰
 ۲۴۱
 ۲۴۲
 ۲۴۳
 ۲۴۴
 ۲۴۵
 ۲۴۶
 ۲۴۷
 ۲۴۸
 ۲۴۹
 ۲۵۰
 ۲۵۱
 ۲۵۲
 ۲۵۳
 ۲۵۴
 ۲۵۵
 ۲۵۶
 ۲۵۷
 ۲۵۸
 ۲۵۹
 ۲۶۰
 ۲۶۱
 ۲۶۲
 ۲۶۳
 ۲۶۴
 ۲۶۵
 ۲۶۶
 ۲۶۷
 ۲۶۸
 ۲۶۹
 ۲۷۰
 ۲۷۱
 ۲۷۲
 ۲۷۳
 ۲۷۴
 ۲۷۵
 ۲۷۶
 ۲۷۷
 ۲۷۸
 ۲۷۹
 ۲۸۰
 ۲۸۱
 ۲۸۲
 ۲۸۳
 ۲۸۴
 ۲۸۵
 ۲۸۶
 ۲۸۷
 ۲۸۸
 ۲۸۹
 ۲۹۰
 ۲۹۱
 ۲۹۲
 ۲۹۳
 ۲۹۴
 ۲۹۵
 ۲۹۶
 ۲۹۷
 ۲۹۸
 ۲۹۹
 ۳۰۰
 ۳۰۱
 ۳۰۲
 ۳۰۳
 ۳۰۴
 ۳۰۵
 ۳۰۶
 ۳۰۷
 ۳۰۸
 ۳۰۹
 ۳۱۰
 ۳۱۱
 ۳۱۲
 ۳۱۳
 ۳۱۴
 ۳۱۵
 ۳۱۶
 ۳۱۷
 ۳۱۸
 ۳۱۹
 ۳۲۰
 ۳۲۱
 ۳۲۲
 ۳۲۳
 ۳۲۴
 ۳۲۵
 ۳۲۶
 ۳۲۷
 ۳۲۸
 ۳۲۹
 ۳۳۰
 ۳۳۱
 ۳۳۲
 ۳۳۳
 ۳۳۴
 ۳۳۵
 ۳۳۶
 ۳۳۷
 ۳۳۸
 ۳۳۹
 ۳۴۰
 ۳۴۱
 ۳۴۲
 ۳۴۳
 ۳۴۴
 ۳۴۵
 ۳۴۶
 ۳۴۷
 ۳۴۸
 ۳۴۹
 ۳۵۰
 ۳۵۱
 ۳۵۲
 ۳۵۳
 ۳۵۴
 ۳۵۵
 ۳۵۶
 ۳۵۷
 ۳۵۸
 ۳۵۹
 ۳۶۰
 ۳۶۱
 ۳۶۲
 ۳۶۳
 ۳۶۴
 ۳۶۵
 ۳۶۶
 ۳۶۷
 ۳۶۸
 ۳۶۹
 ۳۷۰
 ۳۷۱
 ۳۷۲
 ۳۷۳
 ۳۷۴
 ۳۷۵
 ۳۷۶
 ۳۷۷
 ۳۷۸
 ۳۷۹
 ۳۸۰
 ۳۸۱
 ۳۸۲
 ۳۸۳
 ۳۸۴
 ۳۸۵
 ۳۸۶
 ۳۸۷
 ۳۸۸
 ۳۸۹
 ۳۹۰
 ۳۹۱
 ۳۹۲
 ۳۹۳
 ۳۹۴
 ۳۹۵
 ۳۹۶
 ۳۹۷
 ۳۹۸
 ۳۹۹
 ۴۰۰
 ۴۰۱
 ۴۰۲
 ۴۰۳
 ۴۰۴
 ۴۰۵
 ۴۰۶
 ۴۰۷
 ۴۰۸
 ۴۰۹
 ۴۱۰
 ۴۱۱
 ۴۱۲
 ۴۱۳
 ۴۱۴
 ۴۱۵
 ۴۱۶
 ۴۱۷
 ۴۱۸
 ۴۱۹
 ۴۲۰
 ۴۲۱
 ۴۲۲
 ۴۲۳
 ۴۲۴
 ۴۲۵
 ۴۲۶
 ۴۲۷
 ۴۲۸
 ۴۲۹
 ۴۳۰
 ۴۳۱
 ۴۳۲
 ۴۳۳
 ۴۳۴
 ۴۳۵
 ۴۳۶
 ۴۳۷
 ۴۳۸
 ۴۳۹
 ۴۴۰
 ۴۴۱
 ۴۴۲
 ۴۴۳
 ۴۴۴
 ۴۴۵
 ۴۴۶
 ۴۴۷
 ۴۴۸
 ۴۴۹
 ۴۵۰
 ۴۵۱
 ۴۵۲
 ۴۵۳
 ۴۵۴
 ۴۵۵
 ۴۵۶
 ۴۵۷
 ۴۵۸
 ۴۵۹
 ۴۶۰
 ۴۶۱
 ۴۶۲
 ۴۶۳
 ۴۶۴
 ۴۶۵
 ۴۶۶
 ۴۶۷
 ۴۶۸
 ۴۶۹
 ۴۷۰
 ۴۷۱
 ۴۷۲
 ۴۷۳
 ۴۷۴
 ۴۷۵
 ۴۷۶
 ۴۷۷
 ۴۷۸
 ۴۷۹
 ۴۸۰
 ۴۸۱
 ۴۸۲

疾連法師
 今昔
 七百年
 むろさめれ
 まさ
 ひね
 桔の葉
 旁より
 秋れ
 新古今
 昔に秋あり

今年
七百五十五



濟所言蒙寄

すべし女中へあてて
 ちりりおとすといへば
 せうのこゝろあはれぞ
 のんぼのたき
 ものふなとまを
 才あがりかきな
 まはれ女痛の煙火
 わきりけり
 おをたらと
 おをたらと
 母をたらと
 男をたらと
 女をたらと
 問候と
 おをたらと
 おをたらと
 おをたらと
 おをたらと

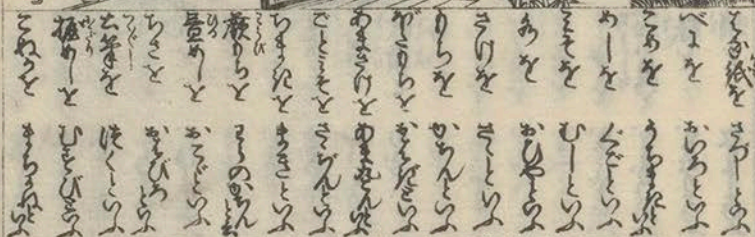
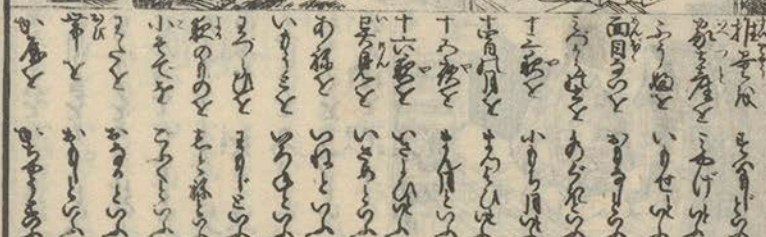
西行法師

あまのこ
月やハ
よのこ
に
か
わの
さ
か

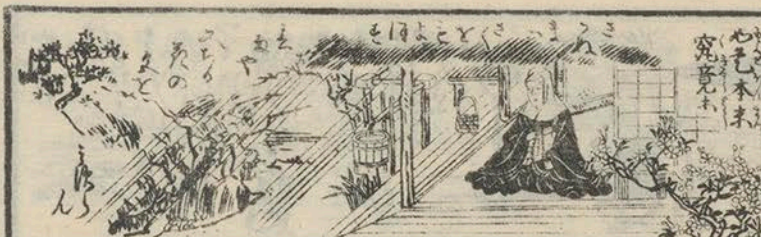
今も
あまのこ
月やハ
よのこ
に
か
わの
さ
か

千載
あまのこ
月やハ
よのこ
に
か
わの
さ
か

今更々々々

[illegible]

志 ^{こころ}
 身 ^み を ^を つ ^つ ぐ ^ぐ
 一夜 ^{ひとよ}
 心 ^{こころ} 祈 ^{いのち} 願 ^{ねがひ}
 耶 ^や 彼 ^か 江 ^え の
 皇 ^み 嘉 ^か 門 ^{かど} 院 ^{いん} 前 ^{まへ} あり
 志 ^{こころ}



傳、その男は、父の
十一月十六日、
なり、基くんの
せてたの、
せん、
被初、女は、
月十八日、
なり、
た、
男、
学、
知、
元、
角、
米、
わ、
し、

入道前大政大臣

花

此

座の

雷

なりて

方

王

十月

新就機曾八

卷之

四十八

後漢書

我教之肉匹類

花



何れも大くは縁起
き、ゆきて書を源
れきゆへ七十八七
しものり年ろ
そりいりあり
婚れ、別して大ゆ
り祝ひ、わくの
式のふより別
典禮は、かゆくる
ゆへふのせも
本老くは、新衣
後、あゆまふ
い、わして、十八の
年、延き、目か祝ふ
なり、壽體、以てそ
右の老人、あつて、こ
等、かゝりて、無頭ホ
壽の字、かゝる、賜

檀中紀言字家

あねを

まゝの



五

臣

何れ

新勅撰

卷之五



あまの月の夜
みづたけ田のお茶は
お茶をむつふらう
園つてふらんぬの
超々としてとて
白の藤やハ重腰
とるうたうむじ
りねたのおどろき
月賀蘭子蜀花

後鳥羽院
 人とも
 いも
 わら
 きき
 世を
 物
 今更半
 六
 難奇

名寄六十種
名寄文字より

夫名香の如くふ
かりしとなれ蘭英
なつゆとらん作
香道堂三吉世紅
芳名屋よの日本
まのさうくにぬる
は華盛ひかちと
かの香をすくのほ
みろ八橋法つ
こ中^てに^て障^りある
ら^きい^ふことふ
どう富庸はやくわ
船名梅胡^ら梅よ
世もたけな梅^らあ
のなれ風王^ら花^ら亮
のわか。白^ら

A woodblock print illustration of a man in traditional Japanese court attire, seated and holding a fan. He is surrounded by large, stylized calligraphic text in Japanese. The text includes '西三任家隆' (Sai-san-nin Keiryū) and '風抄' (Fūshō).



小倉百人一首奥付

明治三十二年七月十五日印 刷
明治三十二年七月十八日翻刻發行

定價金四拾錢

發行兼
印刷者

松邑金次郎

東京市京橋區弓町十二番地

發行書肆

東京市京橋區
弓町十二番地

松邑三松堂

